

成蹊学園 広報



2009
Autumn
vol. 75
SEIKEI GAKUEN

蹊

Series 成蹊教育を知る



中高蹊(こみち)祭



小学校 夏の学校(5年生)

中村春二は、一九二二(明治四五年)年の成蹊実務学校開校を皮切りに、自らが理想とする教育の実践に本格的に乗り出し、一九四(大正三三年)に中学校、一九五(大正四年)年に小学校、一九七(大正六年)年に実業専門学校ならびに女学校と、僅か五年のうち五つの学校を次々と設立しました。中村は、小学校を「貫教育の第一段階」と位置づけて重要視していましたが、まもなく小学校入学以前の家庭教育が子供の人格形成や生活態度に及ぼす影響に思い至りました。そこから遡って、「母親の教育こそ重要」という考えに行き着いたので、これが女学校設立の動機であり、国家や社会に対する責任を持って子供の教育を担うことのできる母親の育成が、彼の女子教育の目標となりました。成蹊教育の機関誌『新教育』も、教育者の範囲を母親にまで広げ、母親に教育者としての自覚を促すという意味で、一九二〇(大正九年)に『母』と改題されました。

このような「賢母主義」に基づく成蹊女学校の教育は、次のような授業と課外活動によって特色あるものになりました。まず精神を錬磨するとともに日本文化を学ぶため、茶の湯、生け花、謡曲、仕舞の時間が設けられていました。一方体育については、日本古来の武芸である薙刀や弓術を取り入れただけでなく、テニス、軟式野球、ローラースケートなどのスポーツも奨励されました。また家事の実践として、昼食の自炊や校内と校庭の掃

母親教育としての女子教育 —中村春二と成蹊女学校—

除、労働作業、節約生活の実習が課されました。家庭内に限らず、広く社会に対する関心や意識を養うため、外国語の読解力と会話力の習得を重視し、「新聞の読み方」という授業で考える力を身につけさせようとしていました。しばしば催された旅行も、生徒が見聞を広げるのに役立ちました。こうして中村春二は、心身ともに強く社会的視野をも備えた女性を育て上げようとしたのです。

(成蹊学園史料館 若林美佐知)



(写真) 女学校第1回・2回生

私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 「人と環境に優しい社会システム」 構築を目指すプロジェクト

Contents

- 2 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「人と環境に優しい社会システム」を目指して
- 4 第3回 成蹊音楽祭
- 5 桃李の人々(竹林 隆光)
- 8 成蹊教育のいま(荻澤 達彦)
- 9 クローズアップ
2009年度 成蹊大学社会活動支援奨学金
- 10 大学の近況
- 12 中学・高等学校の近況
- 14 小学校の近況
- 16 募金局だより
- 18 学生ボランティア本部「Uni」
- 19 学園トピックス
- 20 成蹊教育を知る



インタビュー
桃李の人々
ゴルフクラブデザイナー
竹林 隆光

既成概念を覆すような
モノづくりにチャレンジ
しつづけていきたい



成蹊学園広報

2009年11月10日 発行
学校法人 成蹊学園総務部広報課
東京都武蔵野市吉祥寺北町3-3-1 電話(0422)37-3517
URL <http://www.seikei.ac.jp> e-mail koho@jim.seikei.ac.jp





私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

「人と環境に優しい社会システム」を目指し 理工学部20研究室がプロジェクトを進めます。

成蹊大学理工学部は、昨年二〇〇八年度に文部科学省の補助金「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に採択され、人と環境に優しい統合化された社会システム研究基盤整備をテーマとして、五年間のプロジェクト（二〇〇八～二〇一二年）を進めています。

どのような事業の枠組か？

この事業（私立大学戦略的研究基盤形成支援事業）は、文部科学省が、「大学の経営戦略や研究戦略に基づき、各大学が特色を生かした研究を実施する」ために研究基盤の形成を支援することを目的として平成二十年度から開始されたものです。平成二十年度は全国で九十八件の事業が選定されました。

成蹊大学理工学部では、「人と環境に優しい統合化された社会システム研究基盤整備」のテーマ名で申請し、平成二十年度から平成二十四年度まで五年間の期間の事業として選定、補助金を受給しています。本プロジェクトには理工学部の各学科から二十研究室が参加しています。

どのような研究基盤が形成されるのか？

研究基盤としては、研究施設の整備と研究機器の整備があります。研究施設の整備としては、大学十二号館の地下フロア452㎡の改造、整備が平成二十年度に完了しました。現在研究室として使用が開始されています。一方、研究機器としては、平成二十年度に環境汚染物質計測用PTR-MS（写真①）および環境シミュレーション用ソフトウェア開発システム（平成二十年



写真① 環境汚染物質計測用PTR-MS

度）を導入しました。環境汚染物質計測用PTR-MSはPPt（二兆分の二）の極低濃度の化学物質をリアルタイム（時間毎に）測定可能な装置で、空気中の有害物質の観測や反応系の解析などの研究に使用されています。平成二十年度は、粒子状環境汚染物質計測器、センサ情報収集・解析システムの整備が行われます。粒子状環境汚染物質計測器は、ナノ粒子（1ミリメートルの百万分の一の大きさの粒子）の測定が可能で、浮遊粒子（SPM）の形成過程の解析に用いられます。平成二十二年には環境情報実験設備の整備が行われる予定です。また、これらのハード面の整備に加えて、プロジェクト研究を中心にして遂行するポस्टドクター（博士研究員）を雇用しています。現在、酒井裕香、飯塚淳、樋口政和の各博士がそれぞれの研究で活躍されています。



研究代表
成蹊大学理工学部教授
山崎 章弘

環境問題の解決に求められること

二十一世紀は「環境の世紀」といわれるほど、さまざまな環境問題が深刻化しています。また、マスコミにも当然のように環境問題に関する報道が行われ、環境問題への関心が高まっています。環境問題の解決のためには、政治家、研究者から一般市民まで社会全体が環境問題を認識し、解決のための努力を行っていく必要があります。現代の環境問題は、地球環境、地域環境、室内環境など環境問題の範囲が拡大していること、またそれぞれの環境問題が独立に存在するのではなく、原因、結果が複雑に絡まりあうようになってきているのが特徴です。たとえば、ある環境問題に対する対策技術を開発しても、それを実施することが新たな環境問題を生み出すことが起こります。具体的な例を挙げると、トウモロコシからバイオエタノールを製造する場合、バイオエタノールはもともと大気中のCO₂が変化したものですから、ガソリンと違って燃焼させても大気中のCO₂は増えません。したがって、地球温暖化の対策としては有効になります。しかし、トウモロコシをバイオエタノール製造に使用することでトウモロコシの価格を暴騰させ食糧問題を引き起こすことが懸念されています。また、エタノールのような酸素を含む燃料を燃焼させることでアセトアルデヒドという厄介な、健康被害をもたらす可能性のある物質を大気中に排出します。あちらをたてればこちら立たずといった、拡大、複雑化した「環境問題」、言い換えると「環境問題群」を解決するためには、何らかの新しいアプローチ方法、あるいは方法論が必要になります。

プロジェクトとして何を指すのか？

このプロジェクトの目標は、右のような複雑化した環境問題「群」を解決するための方法を創出、確立することにあります。成蹊大学のプロジェクトでは、「統合化」

● 統合化すること

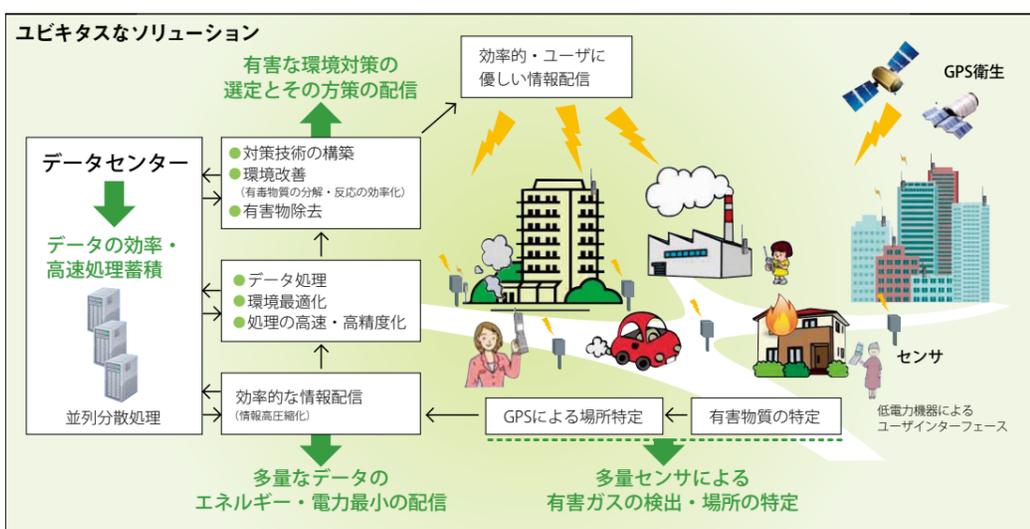
環境研究にはいくつかのフェーズがあります。まず、「計測」や「観測」を行い、どこに問題があるのかを「発見」することからはじまります。それから、その問題がどの程度深刻なのか、また今後どのような影響をもたらすのかについての「評価」や「予測」が行われます。もしその問題が深刻であれば、「対策」技術の開発が必要になります。個別の技術の進歩はめざましいものがあるのですが、現実の環境問題を解決するためには、問題の性質に応じて、これらを有機的にうまく連携、統合化する必要があります。本プロジェクトでは、成蹊大学理工学部のさまざまな分野の研究者の持つポテンシャルを「統合化」したものを創出することを目指しています。

● ユビキタスであること

人間も環境の一部です。環境問題を解決するための技術は、「環境にやさしい」ことは当然ですが、当然「人にも優しい」ことが求められます。センサなどによる環境計測の結果や、対策技術を導入することによる環境改善効果に関する情報は、共有し、常にアクセスできるような環境にある必要があります。プロジェクトで目指すソリューションに要求されるもう一つの側面として、「ユビキタス」であることがあります。ユビキタス、「いつでもどこでも」という意味で、環境に関する情報に常にアクセス、利用できるようなシステム作りを目指すものです。

プロジェクトの今後の予定は？

このプロジェクトは、本年（二〇〇九年）を含めて後四年間続きます。初年度の昨年と本年度「統合化」の方法論を確立し、次年度からは実際にその方法論を実際の環境問題に実践することを考えています。そのために、



それぞれの分野での最先端の技術的な研究成果を出しつつ、各個別の技術の統合化、システム化を行っていきます。また、シンポジウム（本年度は五月と十月に開催）やワークショップ（本年度開催予定）によって本学だけでなく外部の各研究者と議論しながら形にしていこうと予定しています。そして、プロジェクトで得られた成果を広く世に発信したいと考えています。

インタビュー
桃李の人々 vol.23
卒業生ロングインタビュー

— 小中高時代の思い出を聞かせてください。
竹林 小学校一年から三年まで担任だった。ゴルフクラブ開発に力を入れた。ゴルフの楽しさを伝えることができた。ゴルフの楽しさを伝えることができた。ゴルフの楽しさを伝えることができた。



ゴルフクラブデザイナー
竹林 隆光

Takamitsu Takebayashi
 日本オープンベストアマをはじめ、プレーヤーとして輝かしい実績を残しているほか、数多くの画期的なゴルフクラブの開発者としても知られる竹林隆光さん。新聞やゴルフ専門誌などの連載でもお馴染みです。小学校から大学まで成蹊学園で学ばれた当時の思い出と、ゴルフクラブ開発に力を入れた思い出を語っていただきました。

— 部活動は何をされてましたか。
竹林 中学から野球部に所属しました。友人に誘われて軽い気持ちで入ったのですが、いったん始めると熱中する性格で、部の練習が終わった後も、自宅で自主的に練習を重ねました。負けず嫌いだだったので、ポジションは内野手で、高校では、さすがに甲子園が狙えるほどのレベルではありましたが、都大会の上位まで進出することができました。一方で、野球の練習に没頭するあまり、勉強がおろそかになっていました。兄が真面目で成績が良く、先生方から「お兄さんはよく勉強した。それに比べて君は……」と比較されるのが嫌で仕方がありませんでした(笑)。とくに数学が苦手です。高校生の時、テストで0点をとったことがあります。これはまずいと思い、少し勉強したのですが、次のテストも0点。三浦信一先生に呼び出されました。当然、怒られるものと覚悟して行ったのですが、先生は「前回の0点より、今回の0点の方が見どころがある。解答の内容がよく、勉強した後がうかがえる」とおっしゃってくださいました。この言葉はいい励みになりました。もうちょっとがんばってみたいという意欲が生まれ、少しずつ点数がとれるようになっていきました。

— 「家族ゴルフ」からスタート
 三カ月後にはハーフ三十台に
 — ゴルフを始めるようになったきっかけは何ですか。

既成概念を覆すような
 モノづくりにチャレンジ
 しつづけていきたい

た伊東良延先生は、とても優しい方でしたが、子どもたちが悪いことをするとさちんと叱る方でもありました。いたずら好きだった私は、音楽の授業中に友人とふざけすぎて、お尻をたたかれたことがありますが、叱る先生の方も痛いのだと言われたことを覚えています。今なら体罰ということとで問題になるかもしれませんが、「是非々々」の姿勢で子どもと接することは、とても大切なことだと、私は思っています。

成蹊学園創立 100周年記念
第3回『成蹊音楽祭』開催

「成蹊音楽祭」のテーマは『宇(いえ)は大なり』。成蹊の「大家族主義」をあらわすこのテーマのとおり、「成蹊音楽祭」は小学生から卒業生までの音楽団体が参加し、学園全体が一体となって行う音楽祭です。

テーマ：「^{いえ}宇は大なり」

本音楽祭は在校生、卒業生、保護者、教職員、旧教職員、武蔵野市在住・在勤・在学の方々を対象としています。事前申し込みは不要ですので、皆さまお気軽にご来場ください。

開催日 **2009年12月20日(日)**
 13:00 [開場 12:30] ~ (三部構成)
 会場 成蹊学園 本館大講堂

プログラム

出演団体	
小学校	箏曲有志の会
小学校	和太鼓部
成蹊OB	成蹊グリークラブ 指揮：本学OB・グリークラブ所属 柏陽一
保護者	成蹊コーラス 指揮：相澤 直人
小学校	プラスバンド部
中学・高等学校	ウィンドオーケストラ(中高吹奏楽部)によるアンサンブル
休憩	
中学・高等学校	ストリング・オーケストラ 指揮：中高教諭 高倉 守
大学、成蹊OB・OG	大学管弦楽団、OB・OGオーケストラ 指揮：高井 優希
休憩	
成蹊OB・OG	コンパルサウンズジャズオーケストラ OB・OGバンド

お問い合わせ先>>>広報課：電話 (0422) 37-3517
 *詳細は決定次第HPなどでお知らせします。
<http://www.seikei.ac.jp>

招聘指揮者



たかい ゆうき
高井 優希氏
 (成蹊小学校~成蹊高等学校 2003年卒業)

1984年、東京都生まれ。成蹊小学校、中学校、高等学校を経て、2007年、東京藝術大学音楽学部指揮科首席卒業。アカンサス音楽賞受賞。同12月、オペラ「白狐」(戸川純作曲)の世界初演を指揮、公演を成功へと導いた。指揮をウルリッヒ・ヴィントフーア氏、田中良和氏に師事。また、故・佐藤功太郎、小林研一郎、小田野宏之、松尾葉子、故・エルヴィン・アツェルの各氏の薫陶を受けた。東京室内歌劇場、藤原歌劇団などで公演によって副指揮者を務めているほか、数多くのオーケストラ、吹奏楽団、合唱団などの公演で客演している。ライブツィヒ・メンデルスゾーン音楽演劇大学在籍中。国内外で今後の活躍が最も期待されている若手指揮者の一人。



あいざわ なおと
相澤 直人氏

1978年、東京都生まれ。東京藝術大学作曲科を経て指揮科に再入学。作曲を故・穴戸陸郎、野田暉行、尾高忠忠の各氏に、指揮を松尾葉子、鈴木織衛の各氏に師事。病気により指揮科中退をするが、その後合唱指揮者として、ジャンルや年代を問わずさまざまな団体の指揮、指導をしている。現在、あい混声合唱団常任指揮者、アンサンブル桃花常任指揮者、東洋大学混声合唱団常任指揮者、成蹊コーラス指揮者、リリカルピス指揮者、杉並オラトリオ指揮者、東京シティオペラ協会合唱団指揮者、女声合唱団をよかぜ指揮者、ジュニアコーラス・フェアリーズ音楽監督、他、10余の団体の常任、客演指揮に携わる。KEI音楽学院ソルフェージュ科講師。日本合唱指揮者協会会員、同実行委員。かながわ合唱指揮者クラブ会員。

第3回となる今年、あらたにお迎えます

コンパルサウンズジャズオーケストラ

成蹊大学コンパルサウンズジャズオーケストラはまもなく創設50周年を迎える長い歴史を持つ団体です。そのOB・OGバンドは卒業後4、5年から還暦間近までの幅広い年代層のメンバーで構成されています。今回成蹊音楽祭にご出演いただくOB・OGバンドはもっとも早くから活動を始めたグループです。大人の味のある演奏をご期待ください。



竹林 隆光（たけばやし・たかみつ）

1949年、東京都生まれ。成蹊小学校・中学校・高等学校を経て、1973年、成蹊大学法学部政治学科卒業。同年、ヨコオゴルフに入社し、その後、横尾製作所に入る。この間、プレーヤーとして、香港オープンベストアマ（1975年）、日本オープンベストアマ（1977年）、全国都道府県別対抗ゴルフ個人優勝（1983年）などに輝く。1981年、横尾フォーティーンを設立。世界初の中空アイアンを開発するなど、斬新なアイデアで業界をリードしている。新聞やゴルフ専門誌の連載のほか、『腕3道具7のクラブ術』（ゴマブックス）、『上手なクラブ選び』（徳間書店）、『ゴルフクラブの真実』（学習研究社）など、著書多数。

竹林 最初は「家族ゴルフ」です。野球部生活が終わった高校三年生の夏休みにも、ゴルフ好きだった父と兄に連れられて、軽井沢のゴルフ場に行きました。私としては気分転換のつもりで、見学していろいろいいと思っていたのですが、ゴルフ場に到着すると、私専用のゴルフセットが用意してあり、いきなりコースを回るようになったのです。父にしてみればゴルフ仲間を作ったのでしようね。ところが、キャディーさんに渡されたクラブで、何も考えずに打っていただけなのですが、最初のハーフを五十一打で回ることができました。野球の試合でも、打席で空振りすると、相手チームのベンチから「ゴルフじゃないんだぞ」と野次られていたぐらいですから、もともとアッパースイングでゴルフに向いていたのかもしれない（笑）。いずれにしても最初から好スコアが出たことに気をよくして、朝晩練習に励みました。自宅に設置されていたネットに向かつて打ち込んだほか、練習場にも通い、三か月後にはハーフ三十台のスコアが出ました。

― 相当な猛練習を積まれたのですか。

竹林 野球でも、うまくなるためには毎日練習するのが当たり前です。野球部の監督から「一日練習を怠ると、それを取り返すには三日の練習が必要になる」と指導されており、その意識が染みついていましたから、私にとってはゴルフも毎日練習するのが当然といった感覚でした。

大学時代はゴルフ部でキャプテンを務める

― すると、大学ではすぐにゴルフ部に入学されたのですか。

竹林 最初は野球部に勧誘されました。毎日、帰宅すると、家の前に野球部の先輩が待っているような状態でした（笑）。でも、もう野球はやりたくないと考えていたので……。

― それはなぜですか。

竹林 野球は団体競技ですから、お互いにカバーしあう気持ちも大切にしているのですが、個々人の意識としては、失敗した場合は相応の風当たりを受けることも覚悟しなければならぬでしょう。けれども、成蹊学園の野球部では、誰かがエラーしても「ドンマイ」という感じで、何事もなかったかのように終わってしまう。今ではそれが成蹊人の良さだと思いますし、大好きな気質でもあるのですが、当時はそうした緩い雰囲気も許せず、失敗したらすべての責任が自分に降りかかってくる個人競技の世界に魅力を感じるようになっていったのです。そこで、野球部からの勧誘を振り切って、ゴルフ部入部の意志を貫き通しました。

― ゴルフ部の活動で印象に残っていることを教えてください。

竹林 それまであまり厳しい練習はしていない部だったので、私が大学三年

生の途中からキャプテンに就任して以降、朝練やトレーニング合宿などを導入しました。高校時代の野球部のような勢いで、部員にハードな練習を課しました。合宿の時には、一年生の女性部員が「つらくて帰りたい」と、しくしく泣きだしたこともあります。一人泣くと、女子が次々に涙ぐんで……。後輩にはずいぶん恐がられていたかもしれません（笑）。

実は、中学の野球部でもキャプテンを務めていました。その頃の私は「少数精鋭主義」で、優秀なエースがいたので、控え投手を鍛える必要なんてないと考えていました。ところが、重要な試合の際にエースが故障し、大差で負けてしまったことがあります。それ以降、全体の底上げを図ることがチーム力向上に不可欠であるという意識が強まっており、ゴルフ部でも全員に厳しい練習を課したわけです。

また、月一〜二回、部員全員でゴルフ場にキャディーのアルバイトに行ったこともなつかしい思い出です。アルバイト料は部費に当たるとともに、アルバイトが終わった後、一回無料でプレイさせてもらえるのも楽しみでした。

ジャンボ尾崎選手の圧倒的な飛距離に驚嘆

― 経歴を生かして、卒業後はゴルフラブメーカーに入社されたのですか。

竹林 大学入学に際して、両親から言われたのは「四年間の学費は出す。後は何を

しようか、お前の勝手だ」ということでした。ところが、ゴルフ部の活動に没頭したこともあって、卒業試験を受けにいったところ、私の席がありません。驚いて先生に聞くと「出席日数が不足しているので、試験を受ける資格がない。つまり留年だね」と（笑）。最初の約束で両親に学費を出してもらおうわけにはいきませんから、五年目は授業に出席しながら、夜はゴルフショップの店員、長期休暇中夏休みはゴルフ場に住み込んでキャディーのアルバイトをしました。そのアルバイト先の一つがヨコオゴルフのフランチャイズショップで、そのまま就職することになりました。

― 入社後もゴルフ大会に出場されていますね。

竹林 ええ。入社して二年後には、会社に退職願いを提出して、アジアサーキットに本格的に参戦。香港オープンでベストアマになりました。帰国後、当然解雇されると覚悟していたのですが、会社側では逆に、その経歴を生かして、クラブ開発を担当させようという話が進んでおり、親会社の横尾製作所に移るようになりました。その後も、業務と並行して、三か月に二試合ほどのペースで出場し、一九七七年の日本オープンでは念願のベストアマになることができました。

― これだけの実績を収められたのですから、プロになりたいという気持ちもあつたのではないですか。

竹林 それはまったく考えませんでした。私はジャンボ尾崎選手と四回、同じ組でラウンドしたことがあるのですが、とにかく飛距離に圧倒されました。ティーショットから二打でもう一〇〇ヤードも置いていかれてしまう。組み合わせが一緒になって挨拶に行くと「何だ、またゴロベースと一緒か」とからかわれたこともあります。四回のうち一回は私のスコアが上だったこともあるのですが、それでもプロの世界は次元が違うということを肌身で感じていたのです。それに、アスリートとしてよりも、ゴルフクラブ設計者としてゴルフと関わっていきいたいという思いも生まれていました。もともと私は、小学生の頃からモノづくりの世界に憧れがあり、自宅の庭木を剪定する職人や、近所の和竿職人の技を日ごとに一日眺めているような少年でした。そこで、三十一歳の時に一念発起して、横尾製作所を退職し、自らの手でゴルフクラブ開発会社を設立したのです。

異分野にも興味を持つことの大切さを学んだ大学時代

― これまでの経歴の中で、成蹊学園で学んだことが役立っていると感じられることはありますか。

竹林 大学時代、宇野重昭先生の『国際政治論』の授業で「この講義は君たちを政治家にするために開講されているわけではない。君たちの視野を広げることこそが目的だ」と言われたことが強烈に印

象に残っています。それ以降、できるだけ専門以外の分野にも幅広く興味を持つて、自分の幅を広げるように心がけてきたつもりです。クラブ開発の現場では、職人、エンジニア、プロゴルファーなど、さまざまな立場の人々の意見に耳を傾けることが重要です。文系出身の私が、技術者を含む多様な人々と比較的スムーズにコミュニケーションを図ることができたのは、宇野先生の一言をきっかけとして、異分野にも興味を持つ姿勢が身に付いていたおかげだと感謝しています。

― これまで数多くの画期的なゴルフクラブを設計されていますが、「ご自身にとって会心のクラブはありますか。」

竹林 最もうれしかったのは、世界で初めて開発した中空アイアンを日米のトッププロがトーナメントで使ってくれたことです。アマ仕様で開発したアイアンなのですが、それを思いがけずプロが評価してくれたわけで、職人冥利につきます。もっとも、クラブ開発に終着点はありません。どんなに優れたクラブでも必ず反省すべ



き点があり、その課題をクリアすることが次のクラブ開発につながっていきます。そこが面白いところでもあります。

― 今後、開発をめざしたいと考えているクラブはありますか。

竹林 ウッドとアイアンをまったくの別物と見なすのではなく、徐々に形状が変化していき、全体としての統一性、整合性が持たせられるような、いわばリニアなゴルフセットの完成が目標です。そうした従来の既成概念を覆すようなモノづくりにチャレンジしつづけていきたいですね。

― 最後に、後輩へのメッセージをお願いします。

竹林 学生時代はかけがえのない瞬間です。ダラダラと過ごすのではなく、勉強はもちろん、クラブ活動や、遊びでもいいから、自分が興味を持ったことに全力で取り組んでほしいですね。大学で学んだことが社会ですぐに生かせるわけはありませんが、必ず何らかの教えが根づいており、将来、悩みを抱えた時に、ふと思いつくことで、壁を乗り越える糧になってくれます。私にとっては、それが視野を広げることの大切さを教えてくれた国際政治論の授業でした。それに、一生懸命がんばっていれば、自然と周囲にも同じようがんばっている仲間が集まり、特別な関係が生まれます。そんな友人たちとは今でも交流が続いており、彼らの活躍ぶりが励みにもなっています。

クローズアップ

2009年度 成蹊大学社会活動支援奨学金

「成蹊大学社会活動支援奨学金」とは、学生の社会性の向上と人格形成の促進に寄与することを目的として、社会貢献、地域貢献に関する活動、学術的な調査研究活動を行なった学生・団体に奨学金を給付する制度です。今年度受給が決定した教員と学生による団体、W.W.C.Dの活動を紹介します。



**成蹊小学校から集まった
たくさん靴**

私たちがカンボジアへ送る靴として選んだのが、履かなくなった子ども用の運動靴です。なぜ新しいものではなく、履かなくなった靴なのか？それは靴の寄付をお願いすることで、一人でも多くの方にゴミ山の現状を知っていただきたかったからです。成蹊小学校の皆さんのご協力により合計五九二足という沢山の靴を、寄付いただき、そのうち約二〇〇足を八月に社会活動支援奨学金を利用して送らせていただきました。そして九月にフォーアップのため現地を訪問し、残りの靴を届け、子どもたちと交流してきました。

**カンボジアに
靴を送るプロジェクト**

ゴミ山を裸足で歩く子どもたち

私たちは二〇〇八年九月にカンボジアにおけるスタディツアーでプノンペンにあるゴミ山を訪れました。その際、衝撃を受けたのがゴミ山を裸足で歩く子ども達の姿でした。ゴミ山にはガラスの破片や使用済みの注射針などが仕分けされることなく捨てられています。それらの危険物で怪我をすれば、衛生状態の悪いゴミ山では傷口から菌が入り、感染症にかかるなど重症化する恐れがあります。危険な状況を目の当たりにし、私たちにできることはなにかと思ひ、帰国後、ゴミ山の子どもたちに靴を送ることにしました。

学生参加記 「オークン!(ありがとう)」と言う子どもたちの笑顔、靴を履いて走る姿に勇気づけられました

W.W.C.D 代表 文学部 3年 安田 沙織さん

自分たちのしていることは良いことなのか？正直、迷いがあった

今回実際にカンボジアへ行き、子どもたちに直接靴を渡せたことはとても良い経験になりました。昨年ゴミ山を訪れた際に感じた靴の必要性から、靴を送ることを決めたものの、物資支援に対する批判などもあり、靴を送ることが本当に良いことなのか、現地の人々にとって本当に必要なことなのかという迷いが出てきました。貧しい生活の中では送った靴を売ってしまう可能性があり、子どもたちを危険から守るためには役立たないかもしれない。靴を受け取った子どもたちの危険は減らすことができたとしても、一時的に危険を減らすだけでは意味がないのではないか？さまざまな迷いや不安がありましたが、「何もしなければ、何も変わらない」という思いから、靴を送ることを決意しました。

しかし、ただ靴を送っただけではあまり意味がなかったと思います。私たち自身が自分たちの活動に自信を持てるのは、実際に行き、子ども

たちに直接渡し、靴を履くことの大切さを伝えられたからだと思います。靴を履き「オークン(ありがとう)」と言ってもらった時は本当に嬉しく、子どもたちの嬉しそうな笑顔や靴を履いて走り回る姿を見たことでこれまでの迷いなくなりました。

成蹊小学校のみなさんをはじめ、多くの方の支援に感謝

また私たちは靴を届けると同時に、靴を履くことの重要性を伝える紙芝居をしました。小さな子どもたちは一度ですべてを理解するのはなかなか難しいと思います。今後校長先生に紙芝居を定期的に読んでいただき、靴を履くことが習慣化され、ゴミ山で怪我をする子どもが一人でも少なくなっていきたいと思います。

「カンボジアに靴を送るプロジェクト」は私たちだけでは実現できなかったと思います。成蹊小学校の皆さん、先生方、その他多くの方々のご協力に感謝しています。



教室の前に並べられた靴 / 靴に名前を書いている



紙芝居



校庭で遊ぶ子どもたち

法科大学院における 民事訴訟法教育について

成蹊の“学び”を レポート 教育のいま No.10



民事訴訟法、民事執行・保全法、倒産処理法
はぎざわ たつひこ
萩澤 達彦
成蹊大学法科大学院 教授

北海道大学法学部卒業。名古屋大学法学研究科中退。関東学院大学経済学部講師、中央大学総合政策学部講師、助教授、成蹊大学法学部教授を経て、成蹊法科大学院創設以降現職(2009年度より研究科長)。中央法科大学院兼任講師、慶應法科大学院非常勤講師。中央大学在職中にチュレーンロースクール(アメリカ合衆国)客員教授を経験。日本民事訴訟法学会、日本私法学会、日米法学会会員。

民事訴訟法とは

「大学の講義で社会に出てから役に立ったのは、「民法」の講義だけだ」。これは私の知り合いの方(商学部出身)の言葉です。法律というものは知っていれば知っているなりに役に立つものなのです。そして社会人であれば、「憲法」「民法」「刑法」などの法律の内容についても少しは知っているものなのです。ところが「民事訴訟法」という法律の名前を聞いたことがある人はあまりいないようです。それでは「民事訴訟法」という法律は、大して重要な法律ではないのでしょうか。もしかしたら重要な法律をあらわす言葉として「六法」という言葉を聞いたことがある人はいるかもしれませんが。実は「民事訴訟法」は、この「六法」のうちの一つに数えられている重要な基本法なのです。

民事訴訟法教育の工夫

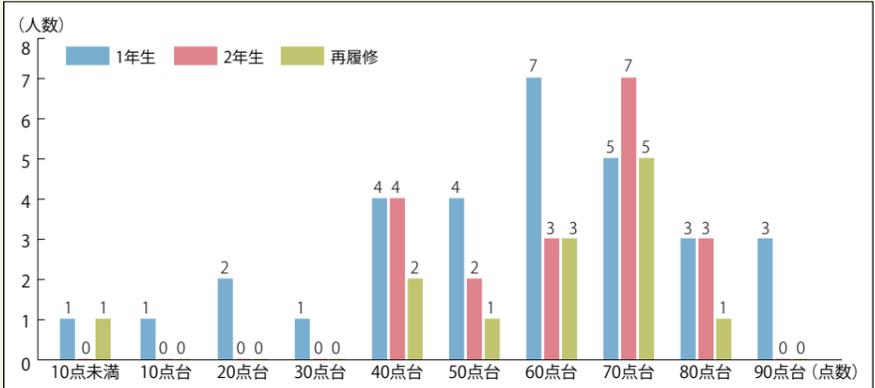
私の講義では、なるべく具体的な民事訴訟手続をイメージできるように工夫をしています。そのために、法科大学院での最初の講義である「民事訴訟法Ⅰ」では、三つの段階に分けて教えています。第一段階では、ビデオ教材で民事訴訟手続の全体をひと

なぜ、このように重要な法律である「民事訴訟法」が、一般になじみが薄いのでしょうか。それは「民事訴訟法」が裁判所での手続について規律する法律であり、実際に訴訟に関わらなければ、知らなくても社会生活上まったく問題がないからなのです。ところが、法科大学院の学生にとっては新司法試験の必須科目なので、いやでも「民事訴訟法」を勉強しなければなりません。

民事訴訟法学習上の苦勞

「努力は裏切らない」という言葉があります。法学の勉強においてもこの言葉はあてはまります。ところが「民事訴訟法」の勉強については、「努力が裏切る」ということが結構あるのです。同じように努力しても「民事訴訟法」がわかるようになる学生と、なかなかわかるようにならない学生とがいるのです。「民事訴訟法」は裁判所での手続について色々定めている法律ですから、裁判所の法廷で実際に習うのが一番効率的なはずですが、ところがそれができないため、教室で座学をすることを余儀なくされるわけです。そのため、直感的に法廷での様子を想像しながら勉強することができない普通の学生に対して、「民事訴訟法」を教えることは難しいのです。また法科大学院においては、学生の入学までの民事訴訟法の学習経験がさまざまであり、レベルの違う者を同じクラスで教えるという難しさもあります。

【2007年度民事訴訟法ⅠA・B期末試験得点のグループ別得点分布グラフ】



この科目の履修者には1年生(未修者)、2年生(既修者)、再履修者の各グループがある。民事訴訟法の学習経験はグループにより異なるが、一番学習経験が少ない1年生(未修者)グループの健闘が目立った。

耳で確認します。第二段階では、手続全体を一覧表にしたオリジナル教材で、文字情報によりもう一度手続の全体を確認させます。第三段階で、教科書とオリジナルプリント教材を使用して、やや詳しい内容の講義をします。またこの段階では、ある程度学習経験のある学生を退屈させないために問題演習を必ずするようにしています。この問題演習は学習経験のまったくない学生にも、習った知識がどのように問題として出題されるかということを理解することに役立つようです。

大学の近況

平成二十年度 新司法試験 本学から十四名が合格

九月十日（木）、法務省より第4回「新司法試験」の結果が公表されました。
本学法務研究科（法科大学院）より六十八名が同試験を受験し、その結果、短答式試験の合格に必要な成績を得たのは四十六名、論述式試験を経て最終的に合格したのは十四名（内訳／既修九名、未修五名）でした。合格した方には心からお祝い申し上げます。
法務省の発表によると、全国での総受験者数は七千三百九十二名、最終合格者は二千四十三名で、今回の新司法試験全体の合格率は二十七・六％でした。

二〇〇九年度 学位授与式

二〇〇九年度学位授与式（九月卒業）が九月二十六日（土）本館大講堂で行われました。十八名が出席し、和やかに式が進められました。修了者・卒業生数は左記のとおりです。



修了者数	法務研究科	5名
卒業生数	経済学部	5名
	文学部	6名
	法学部	10名

成蹊会振興助成金（スポーツ・文化） 贈呈式が行われました

大学の体育会と文化会に所属する在学生の活躍を期待し、成蹊会（卒業生団体）から毎年「スポーツ振興助成金」と「文化振興助成金」を贈呈しています。
本年度は六月二十九日（月）学園史料館二階研修室で行われ、九団体（後述）に対し「スポーツ振興助成金」が成蹊会スポーツ振興委員会の西川廣委員長（政経十八回卒）より手渡されました。西川委員長からは、母校のクラブ活動に対する卒業生の熱い期待が伝えられるとともに、四大学運動競技大会の活躍を祈念した激励がありました。本年も四大学運動競技大会「一般種目」の飛躍に期待し、体育会本部にも助成しております。
また、「文化振興助成金」も三団体（後述）に贈呈されています。

成蹊会では、卒業生からの会費収入を原資として母校支援のための各種活動（育英奨学、学術・教育助成、スポーツ振興、国際交流、文化振興の各事業）を行っており、この助成もその一環として行われたものです。

- ◆スポーツ振興助成金（総額七十五万円）
漕艇部／馬術部／ヨット部／硬式野球部／軟式野球部／蹴球部／合気道部／ライフセービング部／体育会本部
- ◆体育会イベント助成（総額十五万円）
学内陸上／レガッタ
- ◆文化振興助成金（総額三十五万円）
文化会本部／櫻祭本部／新聞会



合格者の声



成蹊大学法科大学院
2006年度入学
法学既修者

秋山 太一さん

少人数制の指導で 確かな実務感覚を身につけられました。

私が本学の法科大学院を選んだ理由は、①実家から近くであること、②24時間利用できること③少人数制であることの3点です。
①の実家から近かったというのはラッキーにすぎないのですが、そのため②本学を充分に活用し、勉強することができました。
しかし、なんといっても大きなメリットは③です。共に勉強した仲間はいい意味でライバルであり、共に戦う戦友でもあります。ときには羽目をはずすこともありましたが、ゼミで朝まで法律の議論をしたこともしばしばです。新司法試験は二度目の挑戦でしたが、先に合格した友人は合格の報告を我が身のように喜んでくれました。
また少人数であることから、先生方、事務の方も学生に親身に接していただけました。廊下でお会いした時にかけていただいた一言で、勇気づけられたことが何度もありました。
授業でも少人数の特質を生かし活発な議論がなされました。特に力になったのは、先生方に受け持っていただいた演習などのゼミです。研究者の先生のゼミでは法律の学問としての知的探求心が刺激され、また実務家の先生のゼミでは実務感覚を身につけることができました。そういった意味で本学の学問と実務の架橋教育は成功しているのだと思います。
皆さまの支えなくして私の司法試験合格はありえませんでした。本当にありがとうございました。

オープンキャンパスが行われました



オープンキャンパスが八月一日（土）・二日（日）、九月十三日（土）・十四日（日）の四日間に渡り開催され、学部別の体験講義やガイダンス、入試相談会や在学生によるキャンパス見学のイベントが多かったです。初日には過去最高の来場者数を記録するなど、大盛況でした。

二〇〇九年度 ケンブリッジ大学 ペンブルック劇団公演が開催されました



九月十九日（土）、ケンブリッジ大学ペンブルック劇団による「THE TEMPEST」公演が四号館ホールで行われました。ペンブルック劇団はケンブリッジの学生も活発に活動している団体で、本学では今年で三回目の公演になります。公演当日は多くの聴衆が訪れ、迫真の演技に会場から盛大な拍手が送られました。

学内競漕大会「成蹊レガッタ」



6月25日（木）、戸田オリンピックポートコースを会場に、今年も熱戦が繰り広げられました。



卒業生の皆さまへ 大学入試願書無料配付のお知らせ

書店等で販売中の2010（平成22）年度成蹊大学一般入学試験要項（願書）を、卒業生に無料でお送りいたします。下記の方法でお申込ください。

- 1 願書請求方法：電話、FAX、メールまたは郵便にて
①氏名 ②住所* ③電話番号
④最終卒業校（大学は学部）⑤卒業年
⑥必要部数 を成蹊会までご連絡ください。
※ 郵送先は成蹊会登録の住所となります。

電話：0422-51-2244 FAX：0422-54-6766
e-mail seikeikai@jim.seikei.ac.jp
社団法人成蹊会 大学入試願書無料送付係 宛
<申込先>

- 2 受付期限：平成22年1月18日（月）
3 お問い合わせ先：成蹊大学入試センター 電話：0422-37-3533

2009年度 後期公開講座のご案内

成蹊大学では、年2回公開講座を開催しています。1回のみのお受講もできます。どなたでもご参加いただけますので、ぜひお出かけください。

2009年度後期公開講座 「教養の扉：桃李成蹊の真髄を学ぶ」	
第1回 11月7日（土）	科学的な考え方 ～最先端研究から日常のヒントまで～ 坪村 太郎（理工学部教授）
第2回 11月14日（土）	スポーツにおける効果的な視線の使い方 ～一流選手はどこを見ているのか～ 境 広志（法学部教授）
第3回 12月5日（土）	『ウェストサイド物語』における民族・人種の表象 ～なぜブエルトリコの女たちは「アメリカにいたい」のか～ 日比野 啓（文学部准教授）
第4回 12月12日（土）	スポーツと人・地域・学校 ～スポーツを通して学べるもの～ 鈴木 滋（経済学部教授）

会場 8号館101室（各日共通）
時間 13時30分～15時30分（各日共通）
受講方法：申込不要。
当日直接会場へお越しください。（無料）
お問い合わせ先：企画運営課
電話：0422-37-3535 FAX：0422-37-3883
e-mail kouza@jim.seikei.ac.jp
URL http://www.seikei.ac.jp/university/

中学・高等学校の近況

中学校夏の学校

中学一、二年生の夏の学校はいずれも七月十三日(月)から七月十六日(木)までの三泊四日を実施されました。例年この時期は梅雨明けと前後し天候が不安定ですが、今年はまずまずの天候で、予定をほぼこなすことができました。

一年生の夏の学校は「宿泊を伴う共同生活や体験学習を通じて自然に親しみ、自立を目指し、仲間作りを行う」ことを目的として、長野県の車山高原で行われました。

一日目は午前八時過ぎに学園本館前を出発、途中休憩をとりながら、昼過ぎに車山ハイランドホテルに到着しました。到着時はあいにく雨のため、開校式を体育館で行い四日間お世話になるホテルの方、付添医師、看護師、添乗員、ヘルパーの皆さんが紹介されました。予定していた車山登山はできませんでしたが、天候は急速に回復、これまで実現できなかった星空観察を行うことができました。都会ではできない満天の星を見る体験に生徒も興奮していました。

二日目は好天のもと、午前中は八島ヶ原湿原観察、午後は飯ごう炊さんが行われました。八島ヶ原湿原は国立公園に指定された植物の宝庫で、卒業生や高校生のヘルパーによる説明を受けながら自然観察を行いました。午後はホテルの屋外調理場での飯ごう炊さん。班ごとに男子も女子も協力しあって調理にあたり、おいしいカレーライスを食べました。



三日目は好天で少し暑さを感じるなか、午前中は車山肩の駐車場から蝶々深山、物見岩、釜が池キャンプ場と元気にまわって八島湿原駐車場からバスでホテルに戻るコースを歩きました。午後は夜のキャンプファイアで行うフォークダンスを行いました。

滞在先での生活はすべてが日本や香港とは違ってました。どれも今まで体験した事なかったものです。豪語は、英語を東京弁と例えれば、まるで広島弁のようでした。会話には少し自信があったのですが、中々苦勞したのが現実です。そこでの生活も僕には驚きでした。僕の滞在先のお宅は広い庭のあるぼつんとした家で、寝起きする場所は何とトレーラーハウスだったのです。キャンピングカーには親しみがありましたが、一畳半ほどの場所での、大変窮屈な毎日でした。しかし数日経ち、肉だけの食卓にも慣れてくると僕の心には空を見上げるほど余裕ができたのです。

今年、カウラ短期留学に参加したカウラ短期留学参加者の感想を紹介します。ここでカウラ短期留学に参加して (高校一年 鳥海蒼宇)



自分は少年時代を香港で過ごしました。なので海外生活には慣れていて少なからず思っており、ホームステイ生活にもそれほど怖く感じませんでした。しかし実際にオーストラリアで生活してみると、たちまち不安が僕を襲いました。思えば全く日本人がいない生活は初めてだったのです。

最終日は四日間お世話になったホテルの部屋を片づけ、バスで東京へ向かい、午後三時過ぎに全員元気に学園本館前に到着、解散しました。中学二年生の夏の学校は、「志賀高原の自然と山に親しみ、規律ある団体生活を営む」ことを目的としています。

一日目は朝八時過ぎに中高を出発し途中休憩、昼食をとりながら、午後一時半過ぎに志賀パレスホテルに到着しました。避難経路を確認しながら全員が屋外に整列、少し雨模様の中の開校式では、生徒代表の開校の言葉に続き、お世話になるホテルの方、付添医師、看護師、アドバイザー、添乗員などの方々が紹介されました。

二日目はまずまずの天候に恵まれ、予定通り前山から渋池、四十八池、大沼池を順に歩く池巡りコースを歩きました。山歩きの指導を、アドバイザーの成蹊大学山岳部OB、ワンダーフォーゲル部員の方々にお願いしました。エメラルド色をたたえる大沼池で昼食、一時間ほど歩いてバスの待つ駐車場からホテルへと戻りました。夜は、近くの湿地へ蜜観察に出かけました。真つ暗な宵闇の中で幻想的に光る蜜の様子に一同おおいに感激していました。



三日目は、笠岳に登り山田牧場へ降りるというコースです。この日も好天に恵まれ、登りは大変に暑く感じましたが、峠の茶屋で休憩し、広い斜面を一気に牧場まで降りると牧場特製のアイスクリームをいただきました。

滞在先での生活はすべてが日本や香港とは違ってました。どれも今まで体験した事なかったものです。豪語は、英語を東京弁と例えれば、まるで広島弁のようでした。会話には少し自信があったのですが、中々苦勞したのが現実です。そこでの生活も僕には驚きでした。僕の滞在先のお宅は広い庭のあるぼつんとした家で、寝起きする場所は何とトレーラーハウスだったのです。キャンピングカーには親しみがありましたが、一畳半ほどの場所での、大変窮屈な毎日でした。しかし数日経ち、肉だけの食卓にも慣れてくると僕の心には空を見上げるほど余裕ができたのです。

今年、カウラ短期留学に参加したカウラ短期留学参加者の感想を紹介します。ここでカウラ短期留学に参加して (高校一年 鳥海蒼宇)



ムが待っていて昼食と一緒にとてもおいしくいただきました。昼食後はバスに乗ってホテルへ戻りました。早めの夕食後はホテル隣の駐車場でキャンプファイア、その中心はクラス対抗歌&ダンス大会です。各クラスが毎日練習を重ねてきた成果を披露しました。素晴らしい仕上がりで採点はとても難しかったようです。生徒の発表の後には、教員たちが秘密練習をして仕上げた出し物もあって喝采を受けました。

海外短期留学

ケンブリッジ大学ペンブルックカレッジへの短期留学は今年で四回目を迎え、七月十四日から八月四日の日程で高校生二十六名が参加しました。この企画は学園国際教育センターの全面的協力を得て実施されています。カレッジの寮に宿泊し、語学研修とイギリスの社会、美術を学ぶこの短期留学は大変人気があり、多くの希望者の中から選抜されたメンバーは全員が充実した研修を体験することができました。

今年、隔年実施のオーストラリア・カウラ高校への短期留学も実施され、八月七日から二十六日の日程で中学三年生と高校一年生の計十五名が参加しました。カウラは第二次世界大戦中捕虜収容所で日本人捕虜集団脱走事件があり日豪双方に多くの犠牲が出たところですが、この悲劇を両国の友好関係に変えていこうと始まった成蹊・カウラ交換留学は来年で四〇

鮮でした。空を眺めるのは本当に楽しかったです。とても健康的な生活でした。朝、鶏の声と共に目が覚めるという経験も初めてで、そんな健康的な生活と、日本ではできない体験。これらを味わった事が僕の留学での大きな収穫であり、変化です。時を経れば、ふとあの生活思い出すように、また違う変化が現れるのでしょうか。今は、ほんの数日間の記憶を胸に、自分の体感したことを生かせるようなものを見つけたと思います。

学習旅行

高校二年生を対象とした学習旅行はこの夏の各コースが実施され、それぞれに旅行の目的を達成し成果を上げることができました。

- 北海道コース(七月十八日～二十一日・三〇名)
- 北九州コース(七月二十一日～二十四日・三十二名)
- 四国コース(前半七月二十八日～三十一日・三十八名 後半七月二十九日～八月一日・三十六名)
- 沖縄コース(八月二十九日～九月一日・三十一名)
- 韓国コース(八月二十四日～二十八日・三十三名)
- 屋久島コース(八月二十九日～九月一日・二〇名)

このうち、韓国コースには両角校長も同行し、恒例となった光新高校訪問と両校生徒の交流イベントでは全体会でメッセージを伝えました。



運動部・文化部の活躍

● 中学硬式庭球部			
(男子団体)			
東京都中学校テニス選手権大会	ベスト4		
関東中学校テニス選手権大会	ベスト4		
全国中学校テニス選手権大会	ベスト16		
(男子個人)			
東京都中学校テニス選手権大会		ベスト16	
シングルス 金澤純			
ダブルス 金澤純・永野道隆		ベスト16	
関東中学校テニス選手権大会			
シングルス 金澤純			出場
(女子団体)			
東京都中学校テニス選手権大会	ベスト8		
関東中学校テニス選手権大会	第5位		出場
全国中学校テニス選手権大会			
(女子個人)			
東京都中学校テニス選手権大会		第17位	
シングルス 吉岡見子			
ダブルス 吉岡見子・田川理沙		ベスト16	
関東中学校テニス選手権大会			
シングルス 吉岡見子		ベスト32	
ダブルス 吉岡見子・田川理沙		ベスト8	
全国中学校テニス選手権大会			
ダブルス 吉岡見子・田川理沙			出場
● 中学水泳部			
(男子)			
全国中学校水泳競技会			
50m 自由形 武藤暉昇			出場
100m 自由形 武藤暉昇			出場
● 中学陸上部			
(男子)			
東京私立中学高校陸上競技選手権大会			
中学1年 100m 田中亮太			5位
中学3年 100m 大坪昂平			3位
中学共通 800m 井川知紘			4位
400m 井川知紘			7位
● 中学演劇部			
東京都私立中学演劇発表会			
最優秀賞 内木文英賞			
● 中学吹奏楽部			
東京都中学校吹奏楽コンクール			銀賞

小学校の近況

終業式で「MOTTAINAI」

一学期は、夏の学校の最終日が終業日と重なる学年がありますので、一学期終業式を全校児童が登校する最終水曜日に設定しています。七月八日の終業朝会では、学園の環境宣言に伴う小学校の環境教育の一環として、次のような話題を子どもたちに提供しました。左にその部分を抜粋します。

●一学期終業朝会・校長の話

さて今日は、一つだけ皆さんの「夏休みの宿題」にしてほしいお話をします。
それは、このことです。(演台にMOTTAINAIの紙面を掲示)

英語の言葉のようですが違います。これは歌の題名なのです。まず、この歌を聴いてみましょう。

MOTTAINAIもったいない
(作詞：仁井山征弘/作曲：super project)

どうでしたか。これは「もったいない」という題名の曲です。二年前の四月頃、NHKの「みんなのうた」で放送していましたから、聴いた人もいるかもしれません。初めて聴いた人は、ラップ・ミュージックと聞いて、とても早口の歌ですから、うまく聴き取れなかった人がいるかもしれませんね。

お話のあとでもう一度聴くことにしましょう。この歌の中には「もったいない」という言葉が、二十一回も出てきます。

「もったいない」という言葉は、だれもが知っている言葉です。でも、なぜ、この「もったいない」という言葉を、英語の文字(ローマ字)で書いているのでしょうか。

それは、この「もったいない」という言葉が、地球の環境を守るとても大切な意味を持った言葉だということ、北海道に住む山口昭さんという人が国連大学で講演したのがきっかけでした。山口さんが初めて「もったいない」をローマ字にして世界に紹介したのです。

そして、アフリカのケニアという国の環境副大臣だったワンガリ・マタイさんという女の方が、世界中に知らせたのです。ワンガリ・マタイさんは、環境についてのノーベル平和賞を初めて受賞した人です。

ワンガリ・マタイさんは、二〇〇五年に日本に来て、この「もったいない」という日本で昔から使われてきた言葉があることを知りました。

ものを大切に使うときに「捨てるのはもったないから」といいます。時間を無駄にしたくない時に「時間ももったないから」といいます。大人は、人から親切にしてもらったり誉めてもらったときに「もったいないお言葉、ありがとうございます」といいます。

このように「もったいない」という言葉は、古くから日本にあった言葉です。そして地球の環境を守るための大事な考えが、この「もったいない」の言葉に込められていると、ワンガリ・マタイさんは気づきました。

つまり、水や電気などのエネルギーの無駄使いを減らすこと(もったいない)、使えるものはすぐに捨てないで丁寧に使って長持ちさせ資源の無駄を減らすこと(もったいない)、そして空き瓶や空き缶など要らなくなったものに他の使い道がないか考えて資源として再利用すること(もったいない)、こうした環境を大切にすることがこの「もったいない」という言葉の中ですべてこめられていると、ワンガリ・マタイさんは感じたのです。

イギリスやアメリカなどをはじめとして、いろいろな国で、マタイさんは「もったいない」を地球の環境を守る世界の言葉として広めました。
はじめに聞いた「もったいない」の歌の題名がローマ字で書かれているのは、そのようなわけがあったのです。

さて、二年生以上の人たちは、去年の成蹊大学の学生さんたちが募集した環境標語は知っていますね。覚えていますか。
環境標語の最優秀賞は、去年の六年生の「今だけの便利があとで、ゴミになる」でした。この環境標語にも、「もったいない」の気持ちがしっかりと込められています。

生の師範団の活動に寄与するものというお志を頂戴し、写真のようなポルト二基の寄贈を受けました。遠泳時の速やかな物品の移動や泳路管理船として、今夏も大活躍しましたことを御礼とともにご報告いたします。

トンネル山グラウンド 復旧工事完成

トンネル山グラウンドは、小学校を含めた学園施設再開発のために、二〇〇四年(平成十六年)から仮設校舎用地として使用されてきました。大学情報図書館と小学校新本館の完成、そして学園本館の改修工事も終了し、再び小学校の子どもたちの運動場としての復旧工事が行われました。

夏休みに工事を終えたトンネル山グラウンドには、前号既報の小学校PTAから新校舎竣工記念として頂戴した「回り平行棒」のほか、写真のような「ザイルクライミング・ミニ」などの遊具も設置され、子どもたちの新たな遊びが始まりました。この五年間、ポプラグラウンドだけが遊び場だった子どもたちの新しい環境の誕生です。



梅雨明け後というのに不順な天候で行事を変更した学年もありましたが、教員と子どもたちが寝起きをとにする「二十四時間教育」の精神は、全学年の夏の学校の中にしっかりと生かされてきました。
全学年の夏の学校とともに紹介したポートの写真は、旧「波佐間会」から寄贈されたものです。「波佐間会」は波左間の海で小中学校が夏の学校を実施していた時代の水泳師範団の方々の組織でした。現在海での夏の学校を実施している小学校六年



5年生



3年生



6年生



4年生



められています。
この夏休み、みなさんも自分の身の回りの「もったいない」をさがしてみよう。もしかしたら学校の中で「もったいない」がたくさん発見できるかもしれません。

そんな発見を二学期に私に教えてください。それが、私から皆さんへの「夏休みの宿題」です。二学期も続ける宿題ですから、よろしくお願ひします。では、宿題を考えるために、どんな「もったいない」があるのか、もう一度歌を聴いてみましょう。：

小学校では、子どもたちに環境課題を啓発する場や体験する機会を数多く設定しています。各教科の学習で、また栽培活動をおして、あるいは全校清掃活動や児童の委員会活動の実践で、さらには文化祭などの発表の場を活用して、さまざまな環境教育が展開されています。今回の朝会での語りかけも、その試みの一つとして紹介しました。

夏の学校

小学校開設以来の伝統的な行事「夏の学校」も全学年が無事に実施できました。

今年には特に新型インフルエンザの流行で、集団宿泊学習の実施そのものが懸念される状況でしたが、いずれの学年も元気な子どもたちの姿を見ることができた夏の学校でした。なかには、



1年生



2年生

通学の安全を考えるために

小学校PTAの安全対策委員会は、夏休み前に「夏休みに家族防災会議を開こう」と全家庭に呼びかけました。通学の安全を守る活動として、一昨年は「親子一斉下校による通学路点検」を、また昨年は「通学路安全マップづくり」を全家庭に呼びかけるなど、毎年子どもたちの通学の安全に関わる啓発活動を行ってきました。今年もPTA安全対策委員会の呼びかけに応じて各家庭で災害時の帰宅路の確保について様々な「家族防災会議」が開かれたことと思います。左は、これを受けた二年生の女兒の日記です。

大人をしんじる

きょう、もしまんが「じしん(しんさい)がおきたら」のことをかんがえるため、かくえきのちかくのひなんじよまで歩いたり、えきの間を歩いたりしました。歩いたばしよは、高円じよとの間と、おち合と高田ばばの間です。
外で歩くことは出来そうだけれど、もんだいは地下です。地下でつがとまるとこまります。それは、うすぐらいせんろをずつとつぎのえきまで歩かなければならないからです。
けれどだいじょうぶです。大人がいます。やさしい人だったら手をつないでくれるかもしれません。大人と大人で子どもをばさんで歩いてくれるかもしれません。
わたしは大人をしんじます。なにがあってもしんじます。
でも、自分からたすけをもとめなければなりません。

(八月十四日かおる)

心打たれる日記です。「学校の大人」も子どもたちの信頼にこたえて、万全の安全対策を講じていかなければなりません。

パソコン・携帯電話からのクレジットカード決済のご案内

パソコン・携帯電話からも寄付のお申し込みができます(クレジットカード決済のみ)。
簡単にお手続きできますので、ぜひご利用ください。

〈パソコンをご利用の場合〉



1 成蹊学園トップページ <http://www.seikei.ac.jp> を開き、画面右上にある「100周年記念事業」をクリックしてください。



2 100周年記念事業ページの左下にある「パソコン・携帯電話からの募金のお申し込みはこちら」をクリックしてください。

以降は画面表示に従って、手続きをお進めください。決済が完了すると、申込完了メールが届きます。

〈携帯電話をご利用の場合〉



- 1 左の二次元バーコードを読み取り、空メールを送信してください。読み取れない場合は bokin@sk.seikei.ac.jp に、直接空メールを送信してください。
- 2 数秒後にURLが記載されたメールが返信されますので、そのURLにアクセスしてください。
- 3 「成蹊学園募金モバイルサイト」が表示されますので、お手続きください。

※ご利用いただけるのは、i-mode、EZweb、Yahoo!ケータイに対応した機種となります。

以降は画面表示に従って、手続きをお進めください。決済が完了すると、申込完了メールが届きます。

【ご利用にあたって】

- クレジットカード決済は、個人の方のみご利用いただけます。(法人・団体でのご寄付をご希望の場合は、誠にお手数ですが募金局までお問い合わせください)
- ご寄付者名とカード名義人は同一である必要があります。
- ご利用いただけるカードは、DCカード・VISAカード・マスターカードです。

【お問い合わせ先】

成蹊学園
創立100周年記念事業募金局
電話：0422-37-3941
e-mail：fund@jim.seikei.ac.jp

第48回 欉祭 テーマ「Plus+」

11月21日(土)・22日(日)開催!



Baseball Bingo

【21日(土)】
13:30開場 14:00開演 場所:5号館102室
恒例のビンゴ大会はベースボールゲームと掛け合わせました。今年も10万円旅行券をはじめ、最新ゲーム機など豪華賞品が目白押し!! チケットの学内先行配布は11月11日(水)12:30～、当日先行配布は11月21日(土)12:00～を予定しています。行くっきゃないでしょ!!



爆笑!! お笑いライブ2009

【22日(日)】
12:30開場 13:00開演 場所:4号館
今年「我が家」・「超新塾」・「しんのすけとシャン」のお笑いライブ!! チケットの学内先行配布は11月4日(水)12:30～、当日先行配布は11月22日(日)10:00～を予定しています。なお、チケットは入場無料・先着順指定席制です。



Studio Beautista

【21日(土)・22日(日)】
11:00～17:00 場所:3号館601教室
表参道のサロン、artifataからプロのスタイリストを招いて、簡単なヘアアレンジ・ポイントメイクを無料で体験できる素敵な企画です。あなたのファッションにおしゃれなPlus+を・・・。

Information
成蹊大学欉祭本部 (委員長:荒井 駿也)
東京都武蔵野市吉祥寺北町3-3-1
電話:0422-51-6102
URL: http://www1.parkcity.ne.jp/f-keyaki/
e-mail: f_keyaki@hotmail.com

第3回オープンキャンパスを開催!

日程:2009年11月22日(日)
上記の第48回欉祭と同時開催
時間:10:00～17:00

受験生を対象に、多彩なプログラムを用意しています。教員やスタッフ、大学の先輩たちと直接触れあうなかで成蹊大学の魅力をぜひ感じてください。

ポン de ビンゴ

【21日(土)・22日(日)】
10:00～17:00(景品交換は18:00まで)
場所:本館前テント
昨年度、大好評だったスタンプラリー企画がパワーアップ!! 今年もビンゴとスタンプラリーがドッキング。学内の展示を見て!! 模擬店で食べて!! 賞品をGETしよう!!

けやきフラワーガーデン

【21日(土)・22日(日)】
10:00～16:00 場所:トラスコンガーデン側前庭
今年吉祥寺フラワーマーケットさんによる委託販売が復活しました!! 切花・鉢植えの販売、クリスマスリース作り体験を行います。クリスマスの準備を欉祭でしませんか?

けやきつづ・えんにち

【21日(土)・22日(日)】
10:00～16:00 場所:情報図書館側前庭
今年の子ども向け企画は、スライム作り・キラキラ☆シャボン玉作り・わなげ・ボール入れゲーム・巨大お絵かきの5ブースを開催します。小さいお子さまから小学生まで楽しめる企画になっています。家族揃って遊びに来て下さいね!

OPENING CEREMONY

【21日(土)】
10:00～10:40 場所:本館前ステージ
今年から始まる新企画です!色んな団体のPR、イベント団体の公演、本部企画PRなど、盛りだくさんです☆この企画は参加するみなさまによってさまざまな色に変化するものでもあります。欉祭の始まりから欉祭をみんなで盛り上げましょう。ぜひ、ぜひ、ご参加を!

この他にも、学生による展示・模擬店・ステージ発表、およびフリーマーケットなど、さまざまなブースを用意して皆さまのご来場をお待ちしております。

【プログラム】

- キャンパス見学ツアー
- 成蹊大学ガイダンス
- 各種相談コーナー (入試、留学、学生生活などについて)
- 資料配布 など

成蹊から お伝えしたいこと TOPICS 学園

成蹊大学が「エコ大学」ランキングで私立大学第三位となりました

「全国青年環境連盟(エコ・リーグ)」が今年六月に発表した「エコ大学」ランキングで成蹊大学が私立大学第三位となりました。これは、国公立大学全校と私立大学環境保全協議会に加盟する私立大学の合計三三四校を対象に実施した調査(有効回答数一〇七、回答率三十二%)に基づいたもので、二酸化炭素の排出量とエネルギー使用実態、温暖化対策、学生の参画や教育という三分野について、回答を点数化しランキング付けしたものです。成蹊大学は二二五点満点中、八〇点でした。

浜松会場 地域懇談会を開催

浜松会場
(対象地域:静岡県・愛知県)

日程:2009年10月3日(土)
会場:オークラアクティビティホテル浜松
参加者数:39名

今年度は昨年度に引き続き、開催前に希望者を対象に個別相談を行い、学校生活や就職状況などについて話し合われました。懇談会では「成蹊大学現況」「アジア太平洋研究センター・国際教育センターのご紹介」「就職状況説明」の3講演に引き続き、卒業生から成蹊学園での思い出をお話いただきました。第2部の懇親会では、和やかな雰囲気の中相互に交流を深められ、盛況のうちに閉会となりました。

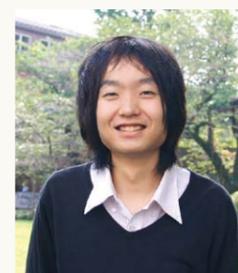
ボランティアをより身近に感じてもらうために 学生ボランティア本部「Uni.」

学生の思いから、2009年6月成蹊大学学生ボランティア本部が設立されました

ユニー
Uni.とは?

学生ボランティア本部の理念をあらわす3つの言葉の頭文字をとって名付けられたこの愛称「Uni. (ユニー)」にはボランティアを通して一生モノの人のつながりを築いてほしいという気持ちが込められています。

- 総合的なボランティア活動の実践
Universal Volunteer
- 一生の仲間づくり
Uniform Friends
- この場でしか得られない経験
Unique Place



多くの人を楽しめる ボランティアの場を提供したい

学生ボランティア本部代表
法学部2年
杉浦 壽一さん

もっと身近で幅広いボランティアを目指して

「ボランティアをしたい人、されたい人、両者をうまく橋渡すためにできることはないだろうか」。大学入学後、ボランティアに携わるようになってそんな風を感じるようになりました。僕が所属していたサークルもそうなのですが、ボランティアサークルには国や分野に特化した活動をするところが多いのです。もっと包括的なボランティア活動ができれば・・・そんな風に考えていた頃、大学側でもボランティア支援の構想があることを知りました。学生として意見を出していくうちに、まずその第一歩として「ボランティアを学生に根付かせる」ことから始めよう、と友人に声をかけ、学生主体のボランティア本部を設立しました。いまでは、1・2年生を中心に約50人の部員が所属しています。

継続の秘けつは「自分が楽しむ」こと!

今年の6月には他大学と合同で「広げよう!ボラ友の輪」というワークショップを開催しました。グループに分かれて、「ボランティアをするうえで大切なこと」をディスカッションしてもらった企画です。ボランティアという「偉い」とか「対価を求めない」といったことが連想されると思うのですが、僕はボランティアはもっと気軽に楽しいものだと思うのです。子どもが好きだから、なんとなく誘われたから・・・動機はなんでもいい、まず自分が楽しんで、結果的に誰かの喜びになる。人のためにではなく自分のためにやっているからこそ継続できるのだと思います。今回の企画ではいろいろな人の価値観を知ることで、ボランティアに対する固定観念を少しでもなくすことができたらと思いました。

ボランティア本部に所属している人は興味分野も違うし、興味の度合いもそれぞれ違います。ボランティアをはじめたばかりの人、興味を持ちはじめた人にどうやって情報を提供していくかが今後の課題です。たくさんの人にボランティアの面白さを知ってもらい、多様な人間関係を築いてもらえるような場を作っていきたいと思っています。



「広げよう!ボラ友の輪」。「ボランティアをするうえで大切なこと」をメンバー同士でディスカッション、発表しました。



御殿場市で実施された国際エコワークキャンプに参加。富士山付近の清掃活動を行いました。



茨城県波崎町で夏合宿を実施。地元自治体と合宿所の協力を得て、海岸沿いのゴミ拾いをしました。

Information

欉祭にてチャリティーフリーマーケットを出展します

11月21日(土)・22日(日)開催の成蹊大学欉祭においてフィリピンのストリートチルドレンや孤児院を支援しているNPO法人ACTIONを通じて、チャリティーフリーマーケットを出展します。収益金は全額フィリピンの子どもたちへ寄付されます。珍しいフィリピンの雑貨など出す予定ですのでぜひお越しください。